

まえがき

人の生命は強靱でありながら、また、はかないものである。そのようなことを痛感させられるのが、人の死に遭遇したときではなかろうか。なぜ、もっと早く気がつかなかったのか、なぜ、もっと適切な処置ができなかったのか、なぜ、もっと早く適切な医療機関に送れなかったのか等、遺された周囲の者は後悔することが多い。

私たちの日常生活は、ある意味、生命に差し迫った危険が生じる場でもあり、身の回りでも、そのような徴候を示す人が現れることも少なからずあると言えよう。そのような場合、そこに居合わせた人（バイスタンダー）が、迅速に救命処置を行うことができれば、その傷病者の生命を救うことができ、引きつづき QOL（生活の質）の高い生活を営めるように支援することができるだろう。

本書は『養護教諭のためのフィジカルアセスメントー見て学ぶ応急処置の基礎基本ー』の第二弾である。第一弾は、養護教諭の特性と言えるフィジカルアセスメントの視点や職場の協働性を中心に論じ、日常的に起こる傷病への救急処置を具体的に DVD で示した。この第二弾は、副題を「ー教職員と見て学ぶ救命救急の基礎基本ー」と銘打ち、生命にかかわる重大事故が発生した場面での教職員全員での取り組みを扱っている。DVD では「心停止」と「アナフィラキシーショック」が発生した場合を取り上げた。特に後者は、学校で準備すべきことと救急対応の後の検証場面も含めて取り上げ、学校での救急体制のモデルを示している。養護教諭はこのような教職員全員が取り組めるような学校の体制を管理職と共に構築していくことが期待され、そのための職員研修を牽引していく役割を担うことになる。本書（DVD を含む）では理想を示すことで、各学校が救急体制を築く第一歩を踏み出していけるようヒントを提示した。

今回も、多くの学校の実態や救命救急の診療の実態を踏まえて編纂することを心掛け、多数の養護教諭や医師が参加して作成したものである。子どもにかかわる学校（幼稚園、小・中・高校、特別支援学校）の教職員の皆さんをはじめ、福祉関係の施設等（保育園、学童保育、その他）で子どもにかかわる職員の皆さんに活用していただきたいと願っている。

2013年11月

編著者一同